

# 2024年3月期 中間決算説明会

株式会社J-MAX

東証スタンダード・名証メイン コード：3422



# 本日の報告事項

- 1、2024年3月期中間決算及び  
2024年3月期業績予想
- 2、成長に向けた取り組みについて
- 3、サステナビリティの取り組みについて

# 本日の報告事項

**1、2024年3月期中間決算及び  
2024年3月期業績予想**

**2、成長に向けた取り組みについて**

**3、サステナビリティの取り組みについて**

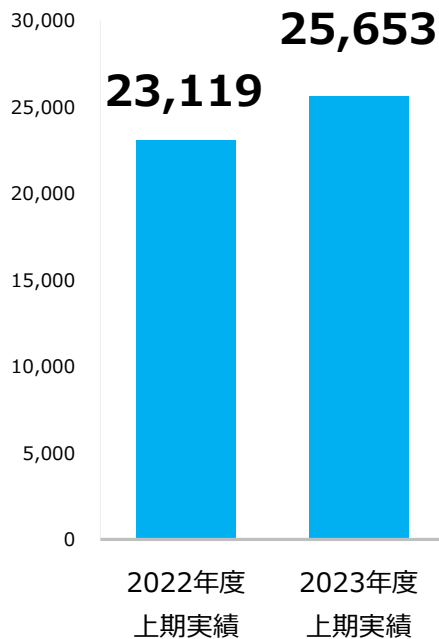
地域		2022年度 上期実績 (千台)	2023年度 上期実績 (千台)	前期比	状況
日本		286	318	11.2%	鈴鹿製作所、埼玉製作所の生産回復により増加
中国	広州	355	351	▲1.3%	中国自動車市場のNEVシフト加速に伴う日系メーカーの減産により減少
	武漢	351	268	▲23.6%	
タイ	四輪	50	71	41.3%	国内生産台数は増加するが、輸出向け部品、汎用エンジン生産台数は減少
	汎用エンジン	699	511	▲26.8%	
合計 (汎用エンジン除く)		1,043	1,009	▲3.3%	

※当社拠点主要客先 生産台数

日本では生産回復するものの、中国における減産及びタイにおける輸出向け部品、汎用エンジン部品減少の影響を受け、全体では減少

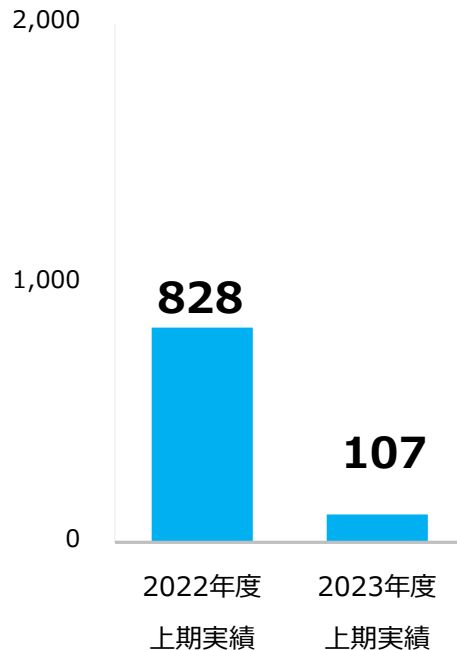
## 売上高

前年同四半期比+11.0%



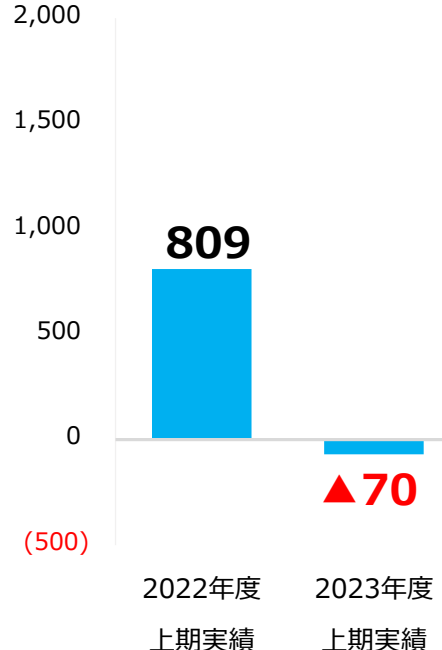
## 営業利益

前年同四半期比▲87.0%

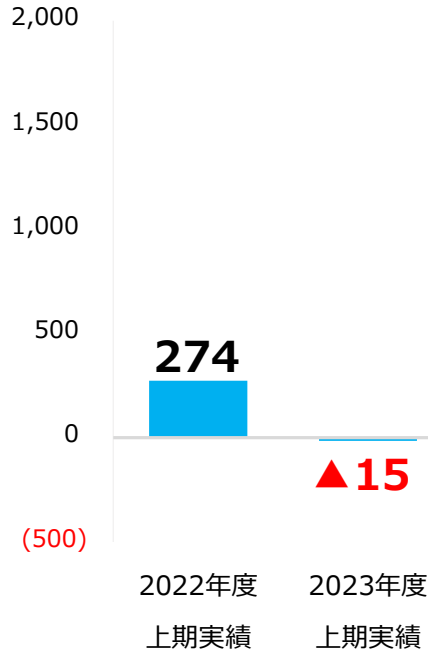


## 経常利益

前年同四半期比—

親会社株主に帰属する  
四半期純利益

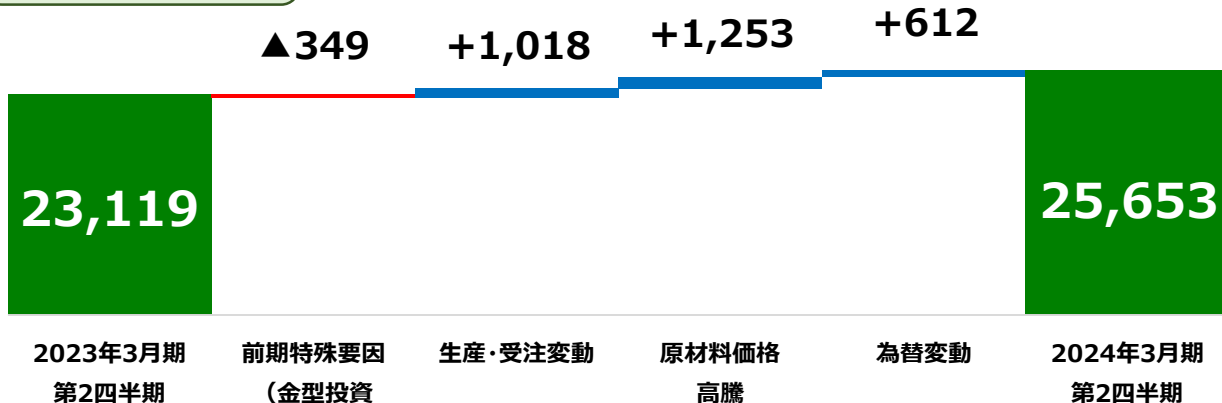
前年同四半期比—



為替レート	2022年度上期 (円)	2023年度上期 (円)	増減 (円)	増減率 (%)
米ドル	133.46	141.31	+7.85	+5.9%
タイバーツ	3.63	3.94	+0.31	+8.5%
人民元	18.98	19.47	+0.49	+2.6%

## 売上推移

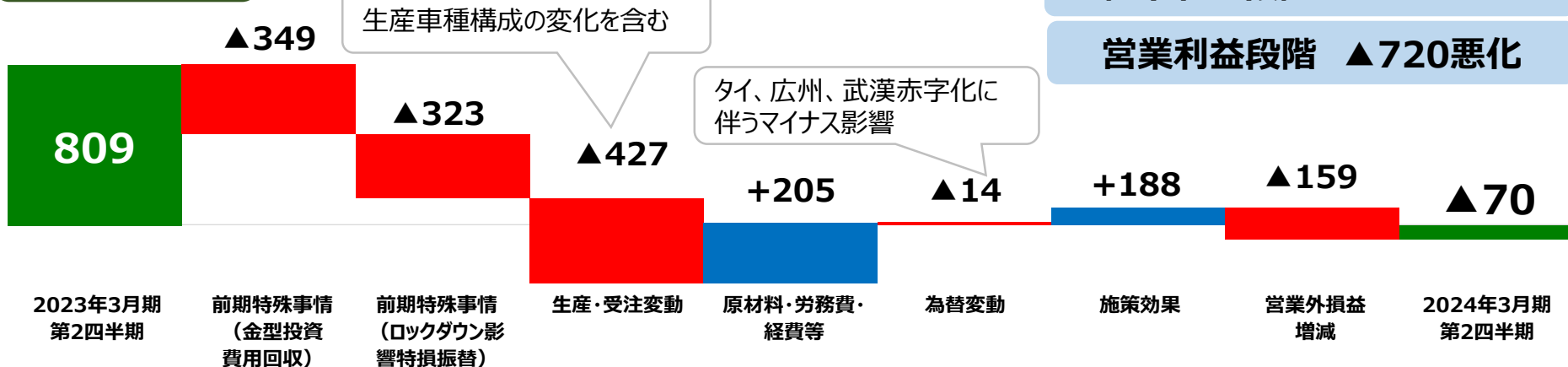
(百万円)



2,534増収

## 利益推移 (経常利益)

(百万円)



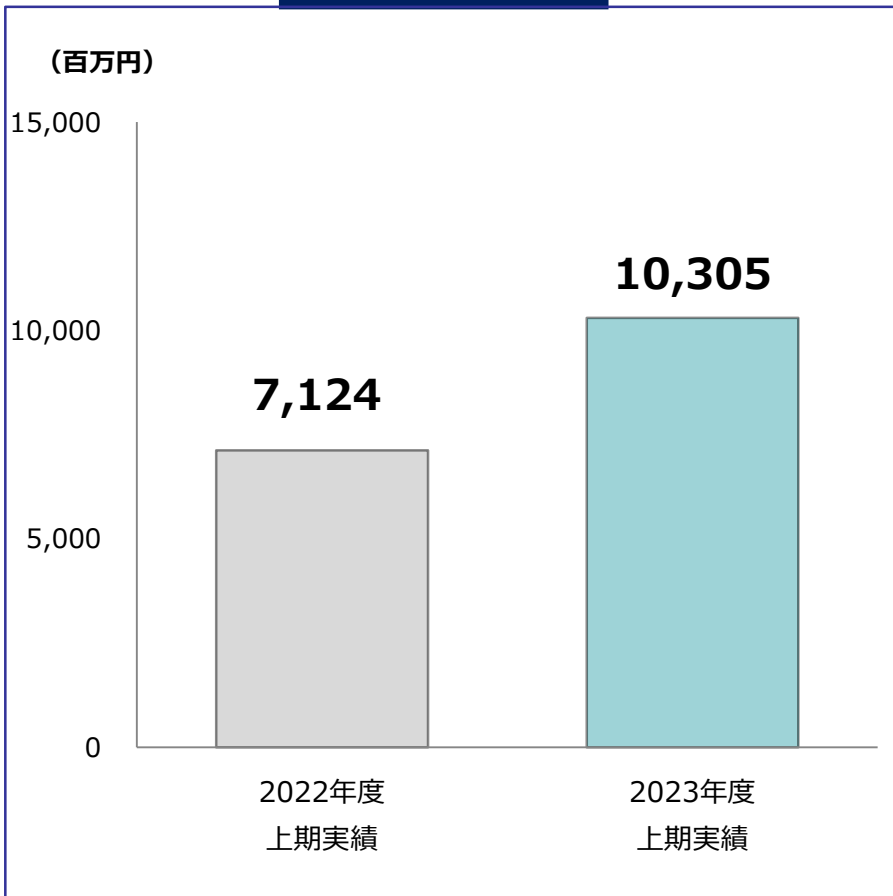
経常利益段階 ▲879悪化

営業利益段階 ▲720悪化

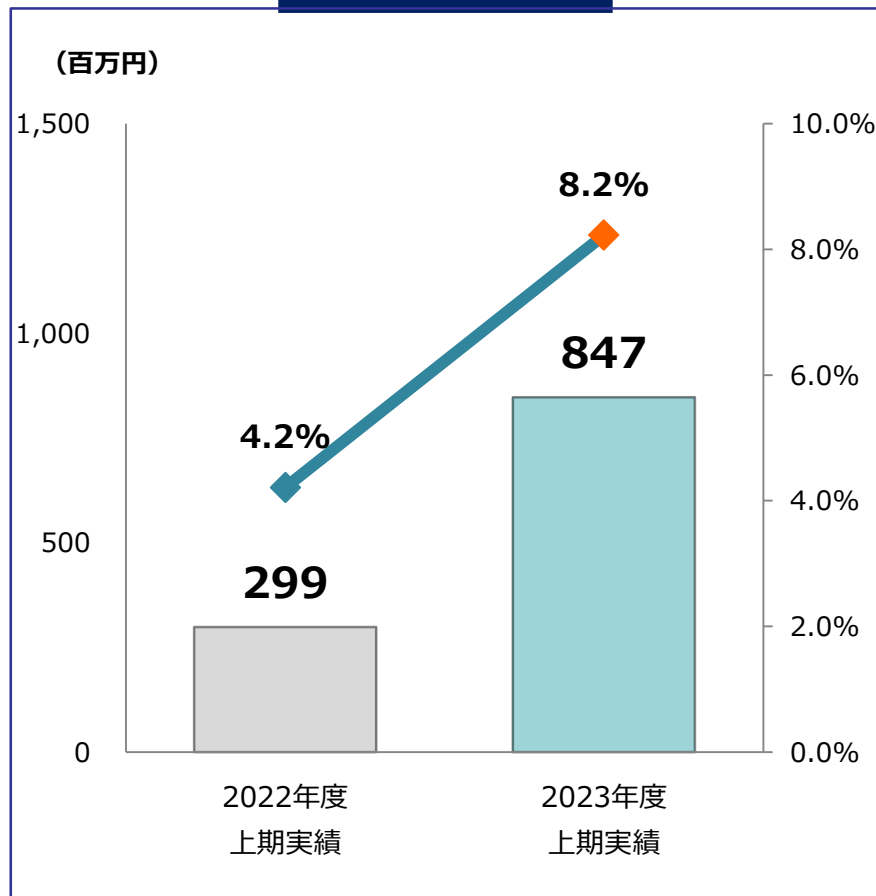
売上：J-MAXにおける生産増加、原材料価格高騰分の価格転嫁、金型販売増加等により増収

利益：前期特殊要因、海外における生産減少、生産車種構成の変化等の影響により減益

## 売上高



## 経常利益



### 【増減要因】

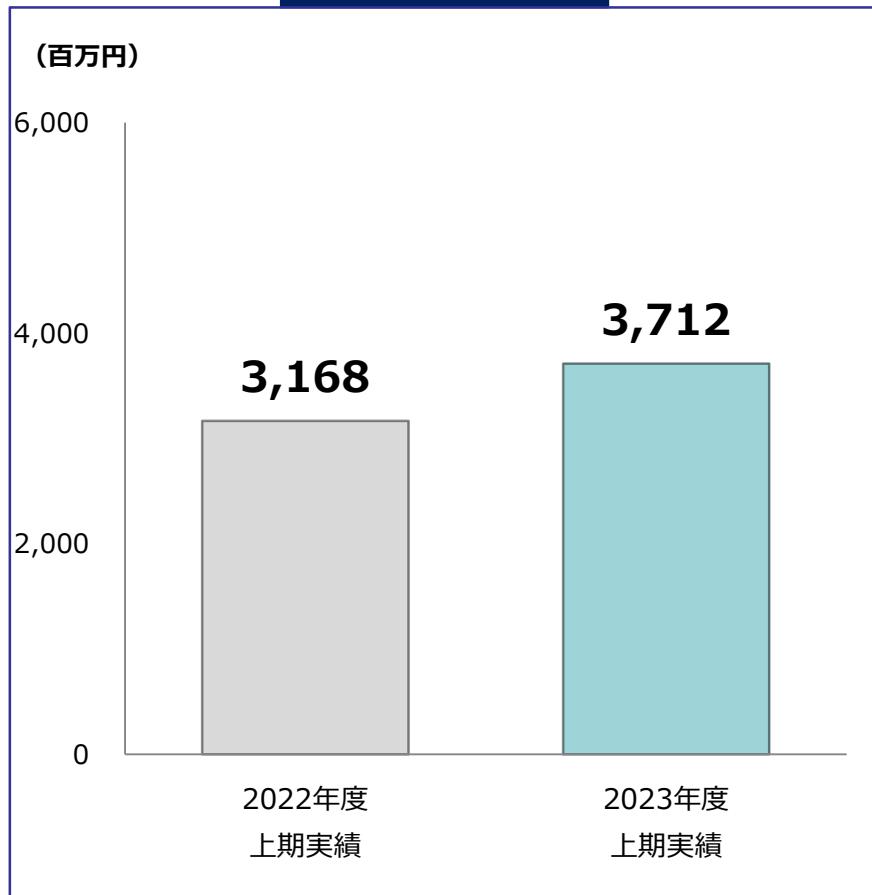
#### 売上高

主要客先の生産回復及び原材料価格高騰による製品売価の増加等により増収。

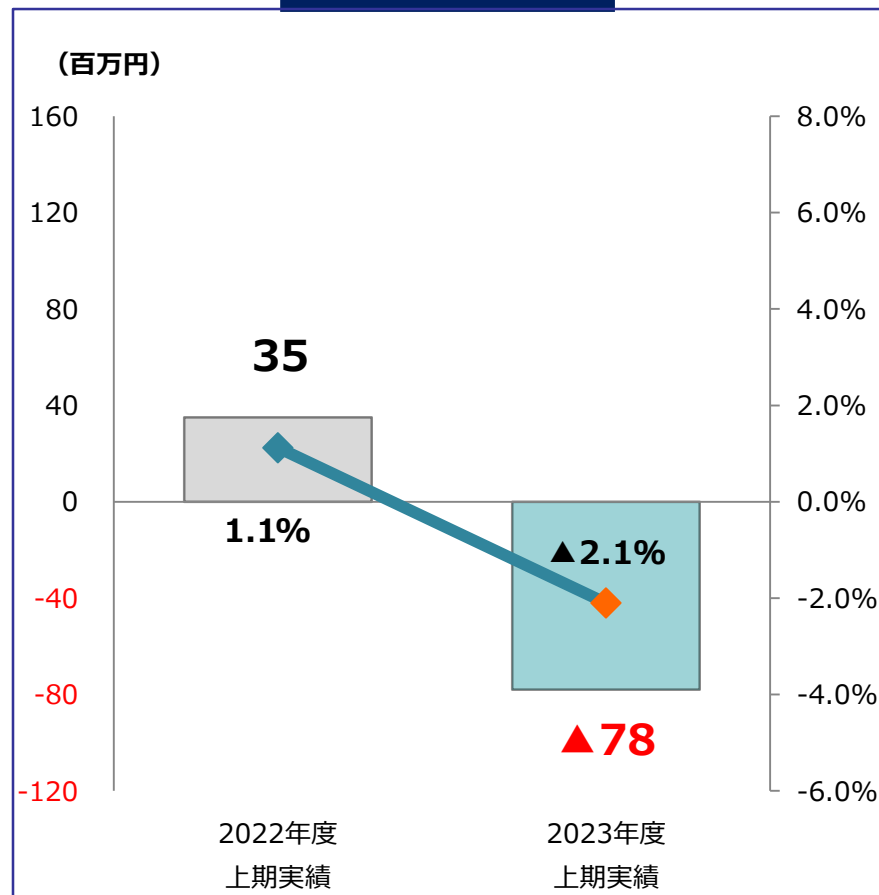
#### 経常利益

増収の影響に加え、金型事業における原価低減活動の推進により増益。

## 売上高



## 経常利益



## 【増減要因】

## 売上高

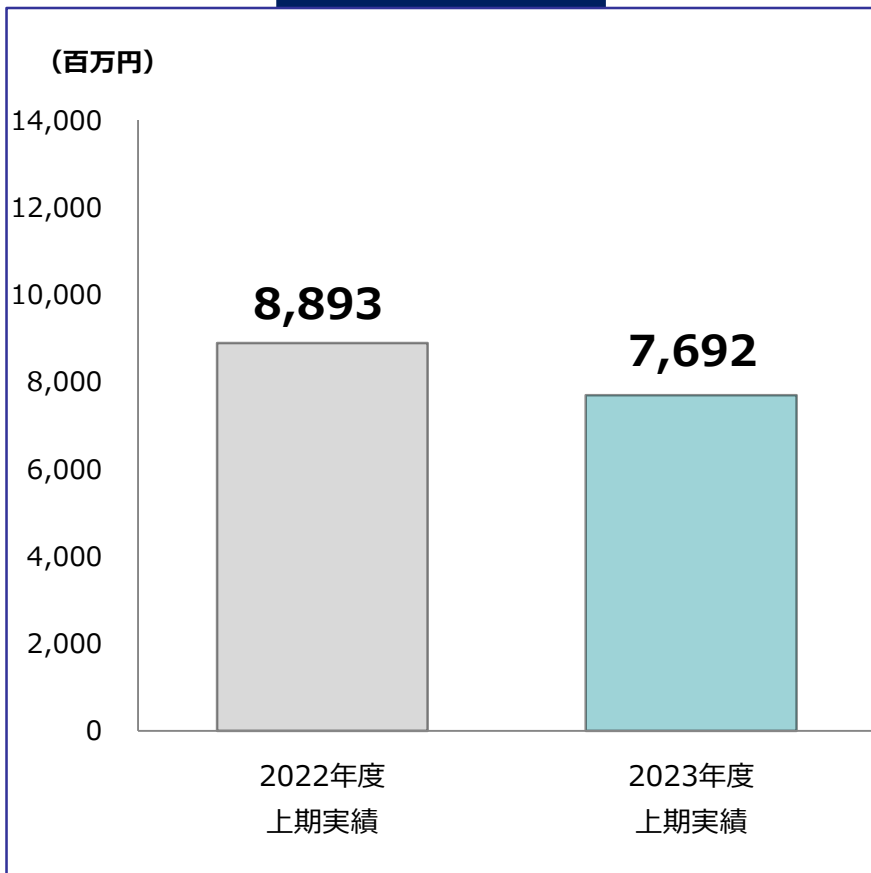
主要客先の輸出向け自動車部品及び汎用エンジン部品等における減産影響を受けたものの、国内向け自動車部品及び金型設備等の販売の増加により増収。

## 経常利益

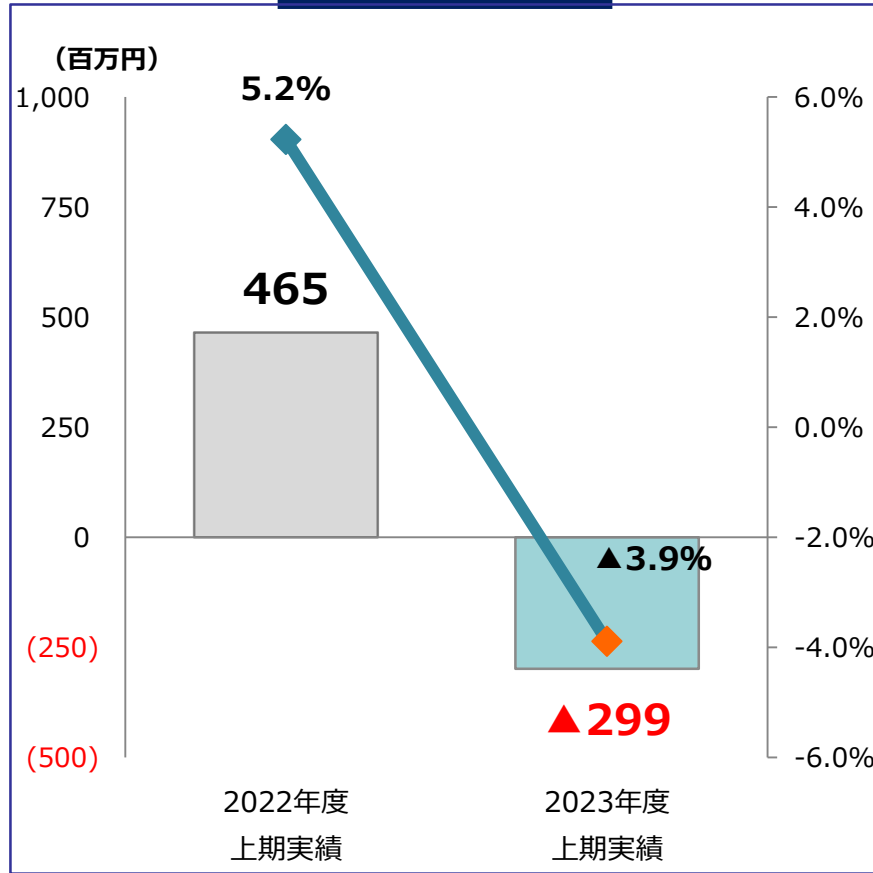
要員適正化等の原価低減活動を推進したものの、生産車種構成の変化等の影響により減益。



## 売上高



## 経常利益

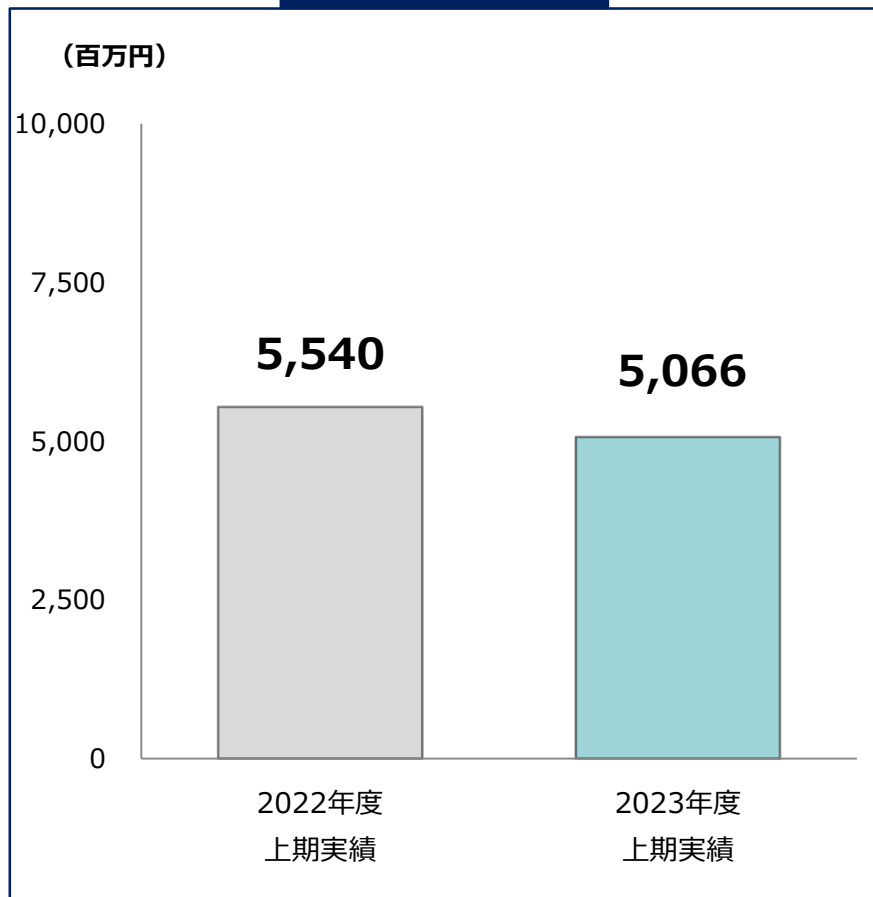


### 【増減要因】

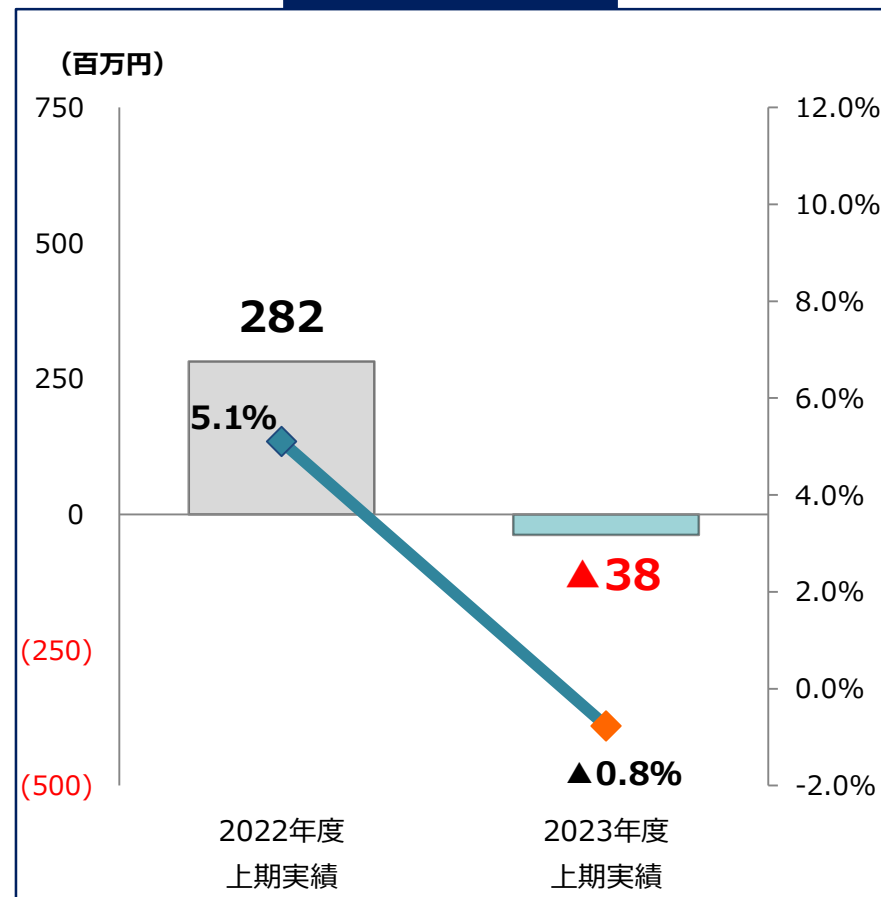
#### 売上高 経常利益

要員適正化に伴う労務費削減等の原価低減活動を推進したものの、主要客先の大幅な減産影響に加え、前年同四半期は金型投資費用の未回収分の回収及び上海ロックダウンによる生産停止に伴う費用の特別損失への振り替え等の特殊要因があったことにより減収減益。

## 売上高



## 経常利益



## 【増減要因】

売上高  
経常利益

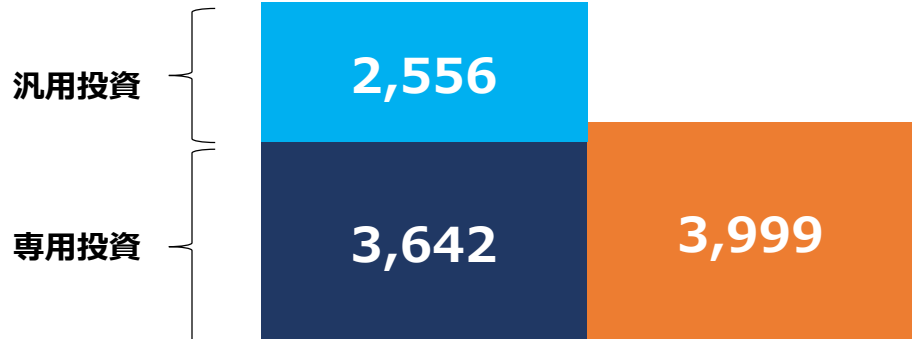
生産性改善に伴う労務費削減等の原価低減活動を推進したものの、主要客先の大幅な減産影響に加え、前年同四半期は上海ロックダウンによる生産停止に伴う費用の特別損失への振り替え等の特殊要因があったことにより減収減益。

■ 専用投資 ■ 汎用投資 ■ 減価償却 ■ 2023年度下期見通し

## 8,370

(百万円)

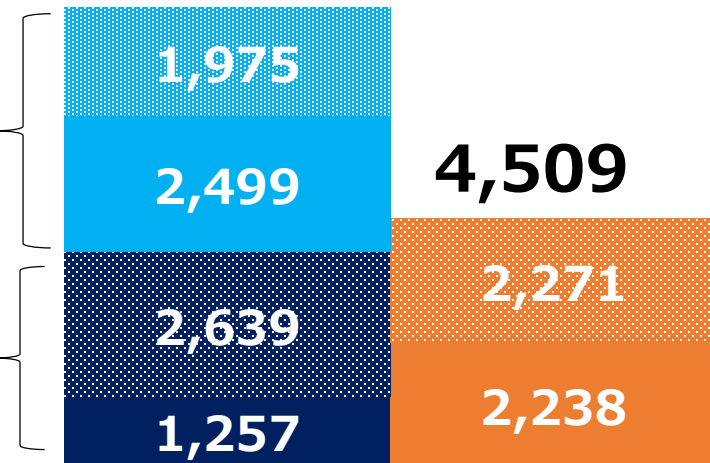
### 6,197



### 2022年度

汎用投資

専用投資



### 2023年度

為替  
レート

タイバーツ : 3.72

人民元 : 19.38

タイバーツ : 4.0

人民元 : 19.65

### 2023年度上期の主な投資

### 2023年度下期の主な投資

J-MAX 汎用投資

- 岡山工場関連
- 太陽光パネル

- 岡山工場関連

広州 汎用投資

- 大型プレスライン設備
- メッキ加工設備

- 大型プレスライン設備
- 福建新会社関連

武漢 汎用投資

- アルミ溶接設備
- 高効率スポット溶接設備

- 高効率スポット溶接設備

全拠点共通 専用投資

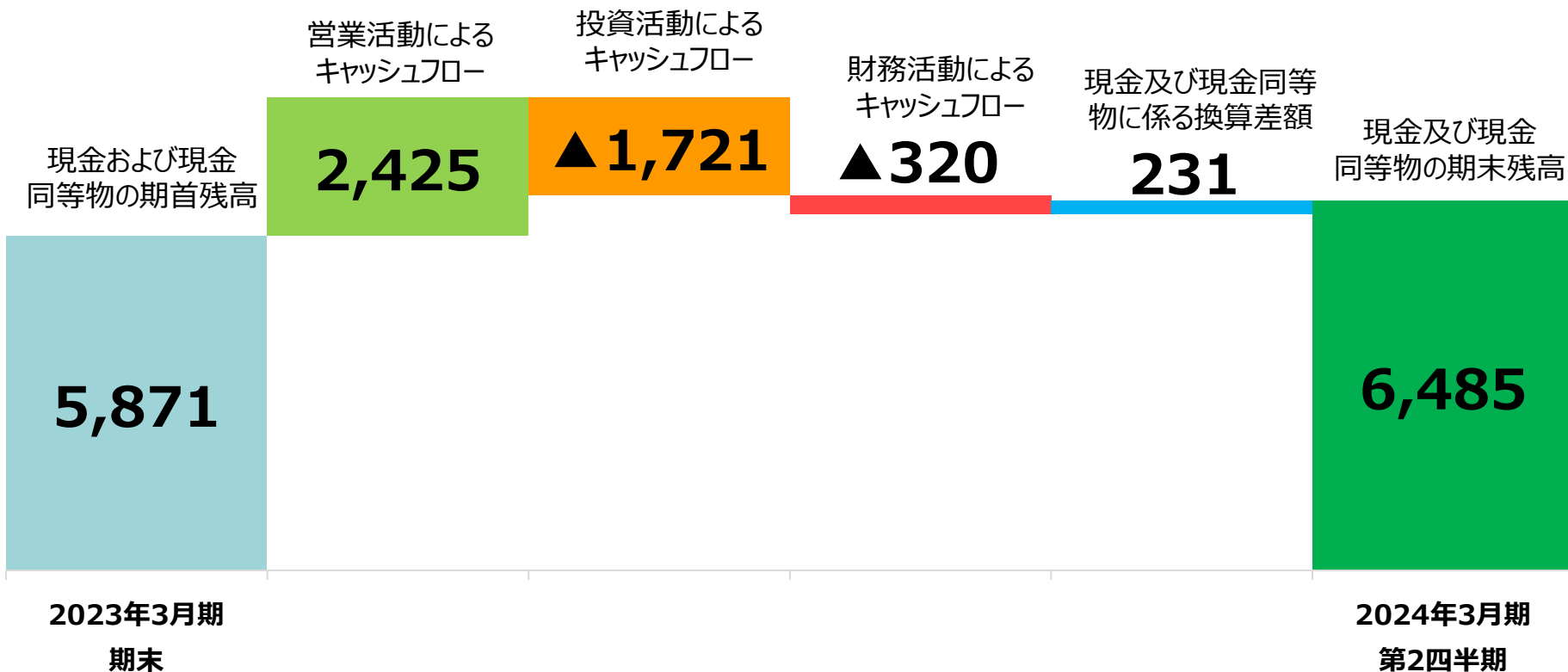
- 新型車種金型

- 新型車種金型

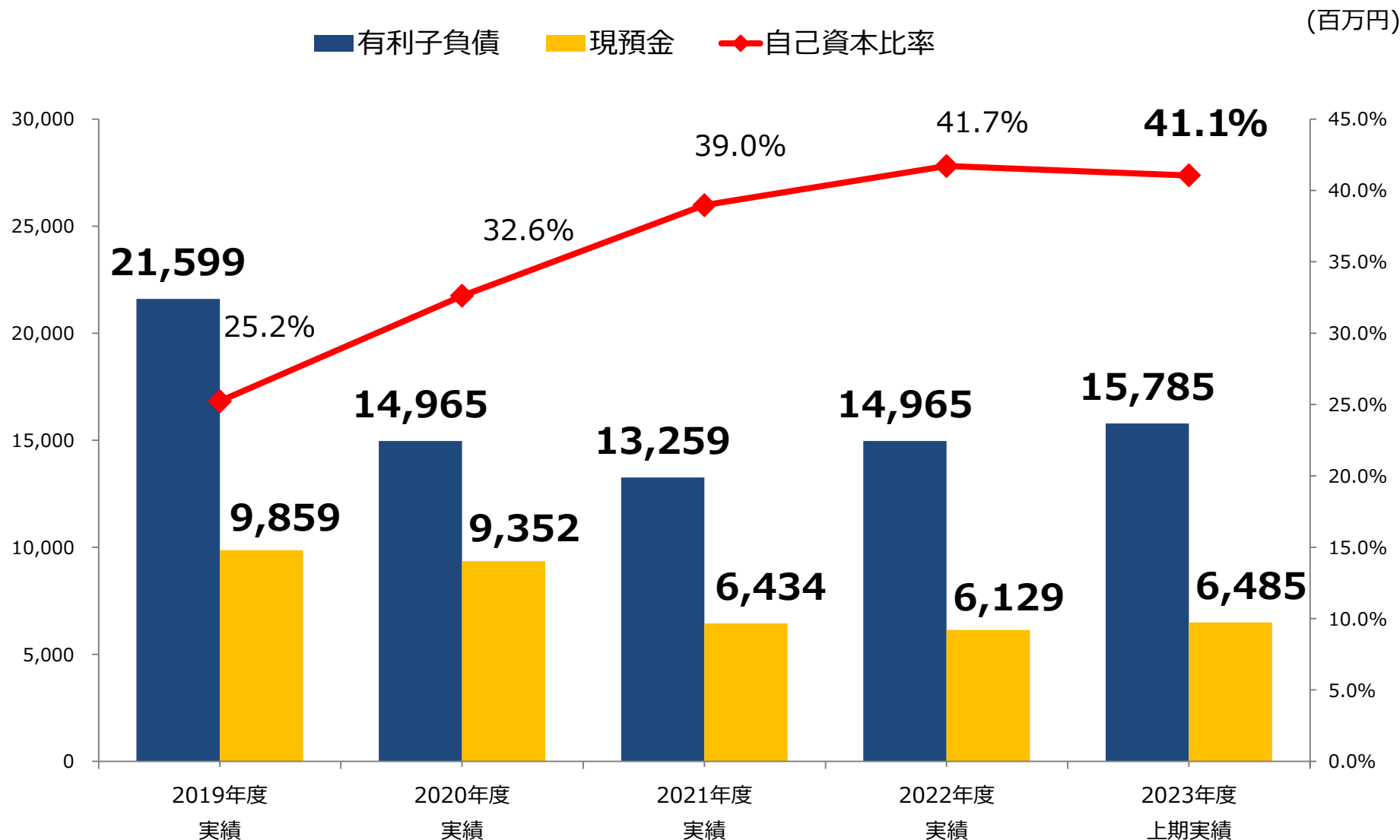
## 岡山工場 (J-MAX)、大型プレスライン・福建新会社関係 (広州) 等 中長期的な成長への投資を中心に推進

## フリーキャッシュフローは703百万円

(百万円)



当初計画していた投資の見直し及び延期により、フリーキャッシュフローは703百万円



**成長投資資金を借入金で充当**  
**自己資本比率は、前期から低下するも41.1%で推移**

## 通期業績予想の修正理由

## 売上高

- 日本における生産回復が堅調に推移。

## 利益

- タイ、中国における生産減少が下期も継続。生産減少においても収益を創出できるよう、徹底的に無駄を省いた高効率な生産体制構築のため、構造改革を推進する。
- 当該構造改革の推進に伴う関連費用を特別損失に計上。

【単位：百万円】

	2023年3月 期 実績	2024年3月期 前回見直し 下限 上限		2024年3月期 予想	増減	増減率
売上高	52,356	44,000	53,000	53,000	0~9,000	0~20.5%
営業利益	2,811	210	2,300	500	▲1,800~290	▲78.3~138.1%
営業利益率(%)	(5.4%)	(0.5%)	(4.3%)	(0.9%)		
経常利益	2,712	▲320	1,900	200	▲1,700~520	-~▲89.5%
経常利益率(%)	(5.2%)	(-)	(3.6%)	(0.4%)		
当期純利益	1,298	▲730	1,100	▲1,400	▲2,500~▲670	-
当期純利益率(%)	(2.5%)	(-)	(2.1%)	(▲2.6%)		
一株利益(円)	110.66	▲63.09	95.07	▲121.66		

2024年3月期 (円)

為替レート

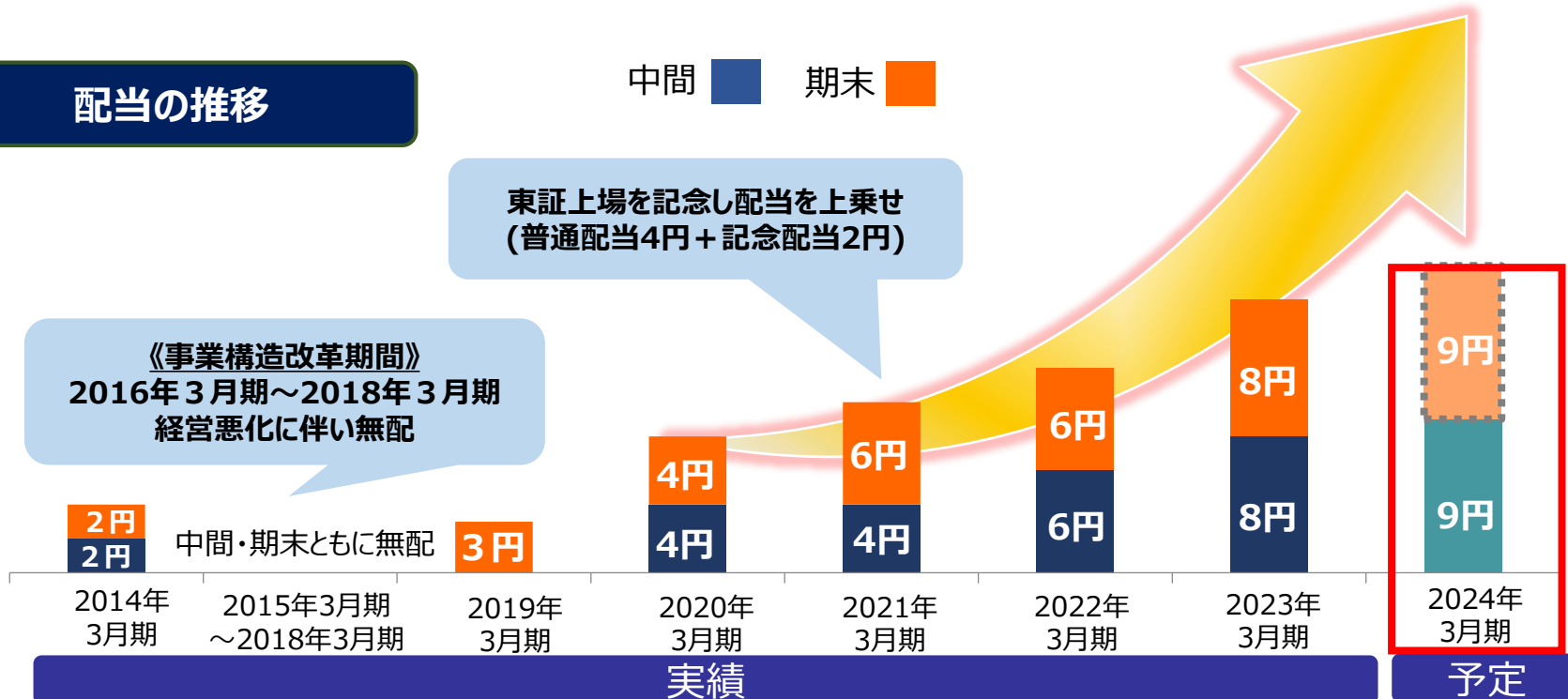
タイバーツ：4.0、人民元：19.65

## <配当方針>

- 中長期1～2年目は経営環境変化への対応として、大型の成長戦略投資を実施。収益貢献/投資/資金調達・返済等グループ全体のキャッシュバランスを考慮し、**継続的に每期増配**することを基準とする。
- 中長期3～5年目は、成長戦略による収益拡大に合わせ**配当性向20%**を基準に株主還元を実施。

### 配当の推移

中間 ■ 期末 ■



# 本日の報告事項

1、2024年3月期中間決算及び  
2024年3月期業績予想

2、成長に向けた取り組みについて

3、サステナビリティの取り組みについて



## 目的

持続的な成長を実現するため

**市場環境の変化に耐えうる**

**強固な収益構造の確立**

## 構造改革の主な取組み

◆ **市場の変化に対応した既存事業のダウンサイジングを推進**

タイ

- 効率的な人員体制の確立  
生産ラインの集約、内外作の最適化

中国

- 希望退職の募集による人員の適正化
- 客先の生産に応じた生産設備の最適化

**固定費圧縮  
約6億円**

固定費圧縮により企業体質を強化し  
中長期成長戦略へと繋げる

## J-MAX : トヨタ自動車アルファード/ヴェルファイアの受注・部品量産開始

### 受注部品群

成形難易度の高いスーパーハイテン材を採用することにより車体の高剛性、軽量化に貢献

プレス部品  
14部品



トヨタ自動車 アルファード

✓ スーパーハイテン部品を中心に、ボディ骨格部品をはじめ、内装に取り付けられる振動対策のプレス部品等、複数の客先より多岐にわたるカテゴリの部材を受注。

✓ アルファード/ヴェルファイアにおいては、完成車メーカーであるトヨタ車体株式会社で使用する金型を製作。その他直近受注車種においては各受注メーカー向け金型を製作。

### 直近の主な トヨタ自動車 受注車種



トヨタ自動車 クラウン



トヨタ自動車 クラウンスポーツ



トヨタ自動車 LEXUS NX



トヨタ自動車 コローラクロス

当社が得意とするスーパーハイテン部品を中心に、  
ホンダ以外の他販拡大を推進

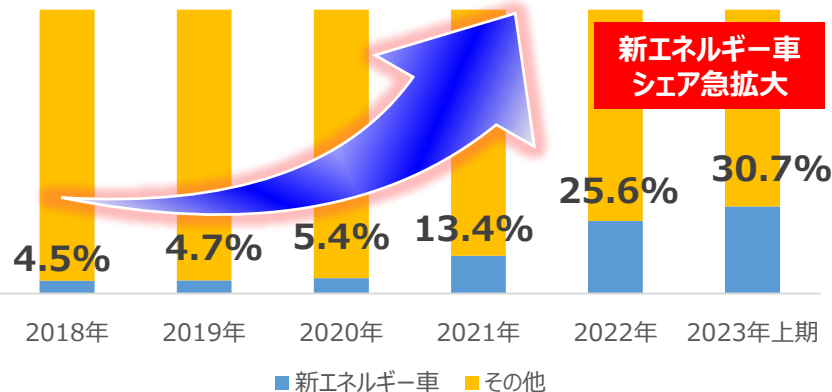
## 武漢丸順：小鹏 G6（EV車）の受注・部品量産開始

中国の現地EVメーカーである小鹏汽車（Xpeng）よりミドルサイズSUV「G6」のボディ骨格部品を受注。**当社初となるアルミ素材のボディ骨格部品。**



小鹏 G6

中国における自動車販売台数に占める  
新エネルギー車のシェア



新エネルギー車  
シェア急拡大

■新エネルギー車 ■その他

### 中国三大新興EV車メーカー



中国で参入が苛烈するEV車市場において台頭する新興EVメーカー3社の一角より受注を獲得。今後もEV車を中心に、ボディ部品、バッテリー部品等の受注拡大を推進。

アルミ材

アルミ材は鉄材に比べ加工難度は高いが、重量が軽い(約1/3程度)。自動車の軽量化に寄与し**低燃費・環境影響に貢献。**

受注部品

中国で加速するEV車需要拡大に併わせて、現地EV車メーカーの受注拡大を推進

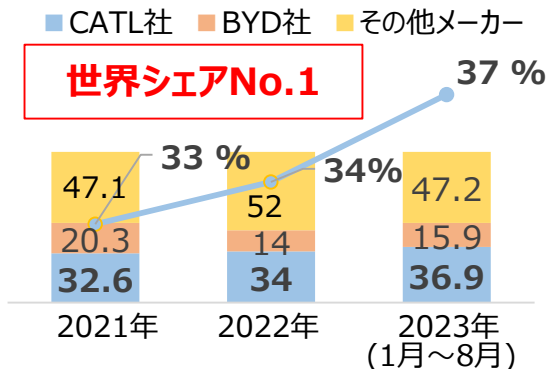
## 広州丸順：電動化事業拡大に向け、CATL受注拡大。

### CATLについて

#### 『会社概要』

会社名	寧徳時代新能源科技股份有限公司 (CATL)		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆動用バッテリー事業 (三元系及びリン酸鉄リチウムイオン電池)</li> <li>・バッテリー材料事業 (リサイクル含む)</li> <li>・蓄電システム事業 (インフラ)</li> </ul>		
拠点	中国、ドイツ、ハンガリー、インドネシア等		
主要納入先	<b>中国系</b>	<b>欧米系</b>	<b>日系</b>
	蔚来汽車 理想汽車 吉利汽車 広汽乗用車 小鵬汽車	Tesla VW Mercedes Volvo Stellantis GM	トヨタ ホンダ 日産 ダイハツ

#### 『車載電池 世界シェア率』



CATL本社 (中国 福建省寧徳市)

#### 『中国自動車部品メーカーサプライヤー競争ランキング』

順位	企業名	総合点	売上高	EBIT DA	設備投資比率	研究開発費率	時価総額
		点	億ドル	%	%	%	億ドル
<b>1</b>	<b>CATL</b>	<b>222</b>	<b>486</b>	<b>12.7</b>	<b>14.7</b>	<b>4.5</b>	<b>1,222</b>
2	福耀玻璃工業集団	214	41	24.1	10.9	4.4	129
3	BYD	213	612	9.6	23.6	4.3	926
4	EVIナジー	207	53	7.3	38.2	5.4	125
4	寧波拓普集団	207	23	17.2	34.1	4.3	111

日本経済新聞社がまとめた、中国の自動車部品メーカーの競争ランキングにて1位 (日本経済新聞社)

# CATLはグローバルに拡大する世界最大の車載電池メーカー



## 当社の取り組み

## 『CATL関係強化』

2020年～

★広州丸順 CATLとの取引開始。  
試作受注から取引を開始し、2021年量産開始となる電気自動車のバッテリーカバー部品を受注。

2022年～

★福建開発・営業センター(9F) 設立

新車種立ち上げのスピーディーな対応



**関係強化**



2024年～

★新プレスライン導入予定

バッテリーケースの大型化、電動化部品の超ハイテン使用拡大に対応



類似プレスライン

2025年～

★福建丸順稼働

『電動化事業拡大』

福建丸順 完成イメージ



※投資額 57億円

## 『福建丸順概要』

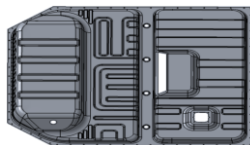
名称 ▶ 福建丸順新能源汽车科技有限公司

生産開始年月 ▶ 2025年1月

主要生産製品 ▶ 大型バッテリーカバー

(想定) ▶ 大型バッテリーケース

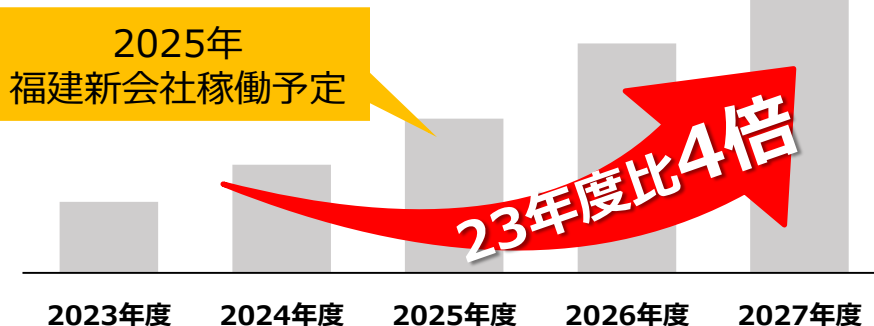
▶ 小物部品



バッテリーカバー

## 『CATL向け売上高見通し』

**約80億円**



自動車の世界的な電動化拡大に併せて、車載電池業界トップCATLとの関係性を強化し、売上高は2023年度比4倍を目指す

## 広州丸順：ステアリングハンガー部品検査用 カメラ測定器導入

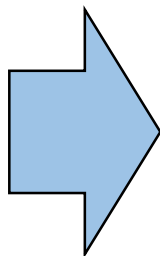
広州丸順の主力製品のひとつであるステアリングハンガー部品の検査作業について、**品質検査能力の向上及び省人化の為、カメラによる自動測定器を導入。**

変更前

検査作業工程（人に依存した検査）



作業員：2人/ライン



変更後

自動測定器



作業員：0人

ステアリングハンガーはダッシュボードの中にあり、ダッシュボードを固定している部品。

製品1台につき、50か所以上のボルトやナットが溶接されており、欠品や位置ズレ、溶接スパッタ等の確認作業が作業者の能力に左右される。

ロボットに2D+3Dカメラををsetし、製品の自動検査を行い、NG箇所の検出を行う。

カメラ測定器導入により、品質保証能力の向上と省人化を達成。

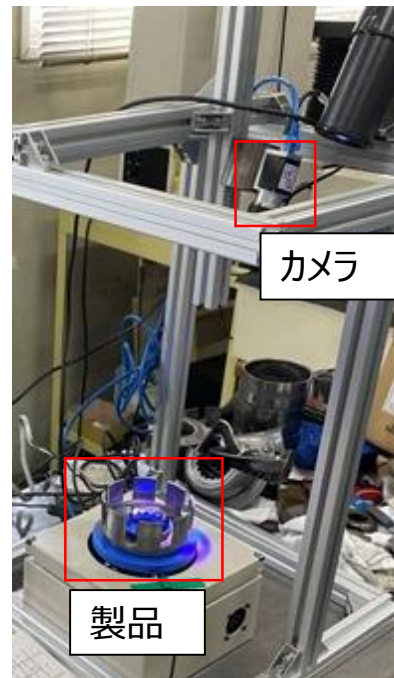
**検査工程の自動化により、品質検査能力の向上と要員を削減**

## J-MAX : 製品外観検査におけるAI活用開始

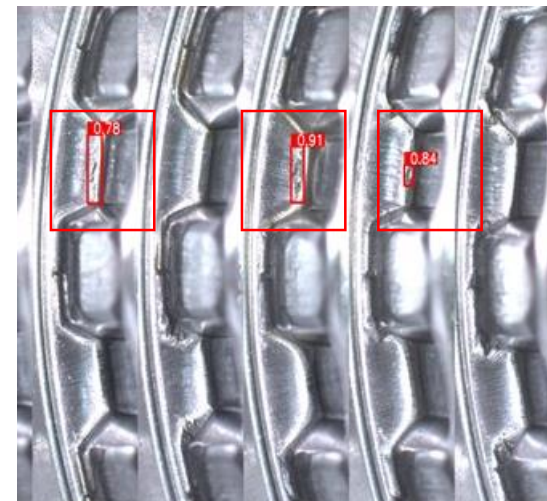
人による目視では検出が困難な精密部品の亀裂検査において、**検査AI装置を自社開発。**  
6月より実証実験を開始。



作業風景



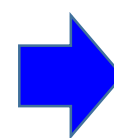
検査装置



検査結果 (例)

検査AI装置により製品  
精度の合否を判定

精密部品はボディ部品に比べ精度要求が高く、検査工程に高度なスキルと多くの工数を必要とするが、**AI活用により検査作業を自動化・標準化し、品質保証能力の向上と作業工数を削減。**



システムの商品化を  
検討

AIシステムの自社開発・作業への活用により、作業工数を削減

# 本日の報告事項

- 1、2024年3月期中間決算及び  
2024年3月期業績予想
- 2、成長に向けた取り組みについて
- 3、サステナビリティの取り組みについて



ESG	重要課題 (マテリアリティ)	KPI	30年度 目標	23年度上期 実績	23年度上期の主な取り組み
E	①CO2排出量の削減	● CO2排出量削減率	50.0%	34.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 太陽光パネルの増設、風力発電設備の設置</li> <li>■ 中長期目標&amp;2030年までのロードマップの見直し</li> <li>■ 各種省エネ施策の実施、ISO14001運用管理</li> </ul>
E	②廃棄物の削減&資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物排出量の削減率</li> <li>● 仕損費比率の削減率</li> </ul>	50.0% 10.0%	21.2% 15.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ レンタルウエスの運用開始、廃プラの分別・廃棄状況把握</li> <li>■ テストピース使用による破壊費削減、仕損費削減の取組み</li> </ul>
S	③当社技術を活用した技術革新	● 電動化関係部品売上拡大	+30.0%	1,121 百万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スーパーハイテン技術、軽量化技術の開発</li> <li>■ EVバッテリー関連部品の開発、受注活動</li> </ul>
S	④ダイバーシティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性管理職者数</li> <li>● 外国人社員比率</li> <li>● 障がい者雇用率</li> </ul>	5名 3.00% 3.00%	0名 2.05% 3.22%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 女性監督者と面談、現状課題のまとめ、セミナー検討</li> <li>■ 外国人社員の採用推進</li> <li>■ 障がい者の定着支援の定期実施</li> </ul>
S	⑤人材教育・育成	● プロフェッショナル人材管理職 (専門職昇格者)	5名	1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 監督職育成プログラムの推進</li> <li>■ 階層別教育の構築・運用、SDGsカードゲーム研修会実施</li> <li>■ 岐阜大学との産学連携の取組み</li> </ul>
S	⑥働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過重労働者率</li> <li>● ワークライフバランス推進</li> <li>● エクセレント企業認証</li> </ul>	0% 取得・認定	7名 モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 残業時間/有休所得のモニタリング・呼び掛け</li> <li>■ 育休・介護休暇の部内講習会の実施</li> <li>■ 内部統制システムの整備、運用状況の報告</li> </ul>
S	⑦労働安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康経営優良法人認定</li> <li>● 休業災害件数</li> </ul>	取得・認定 0件	認定維持 1件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健診結果解説セミナー&amp;ウォーキングイベント実施</li> <li>■ 健康経営取組方針の策定、健康経営調査票の申請準備</li> <li>■ 安全TOP巡視、安全衛生防災委員会、安全朝礼の実施</li> </ul>
S	⑧地域経済への貢献	● 地域活性化事業の展開	事業化	実証実験 事業提案書提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 循環型農業(ウナギと苺)の実証実験の推進</li> <li>■ アライアンス先と連携し、栽培環境整備と熱交換設備の検証</li> <li>■ 小学校の跡地利活用に応募、事業提案書を市へ提出</li> </ul>
G	⑨コーポレートガバナンスの強化	● コーポレートガバナンス・コード遵守率	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社外取締役ミーティングの推進、役員報酬制度の改訂</li> <li>■ IR活動の実施 (名証IRエキスポ出展etc.)</li> </ul>

## 風力発電設置



本社・上石津工場の南西側に400W出力の風力発電設備を設置。  
発電した電力は上石津工場の夜間照明に利用し、CO2排出量の削減に貢献。



## 太陽光パネル設置

再生可能エネルギーの積極的活用の推進に伴い、J-MAX本社に、太陽光パネルを増設。海外3拠点を含め、J-MAXグループ全拠点において太陽光パネルを設置を完了。



J-MAX 太陽光パネル増設



タイ丸順



広州丸順



武漢丸順

風力発電や太陽光パネルを導入し、  
再生可能エネルギーの普及並びにCO2の削減に貢献

ご清聴ありがとうございました

## 技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

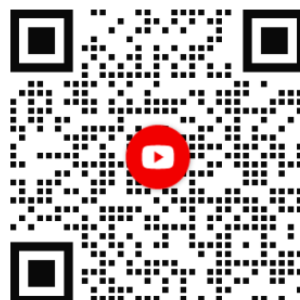
### ▼ WEBSITE

HP ▶ <https://www.jp-jmax.co.jp>



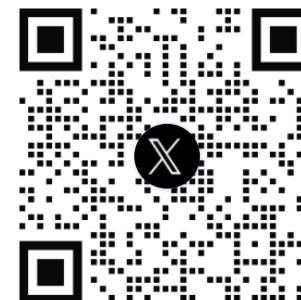
### ▼ OFFICIAL SNS

YouTube ▶ @J-MAX3422



### ▼ OFFICIAL SNS

X(旧Twitter) ▶ @J\_MAX3422



この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

# 質問①

**構造改革の内容、効果は何か。  
また、構造改革にかかる費用は  
今期中に全て計上されるのか。**

## 質問②

中国の構造改革について、現中長期において特に強化するCATLビジネスに影響はあるのか。

## 質問③

**構造改革の実施により、中長期  
経営計画は見直すのか。**

# 質問④

来期の業績予測を教えてください。

# 質問⑤

今期の大幅な業績悪化に伴う  
経営責任についてどう考えるのか。



# 質問⑥

株価状況についてどう考えるのか。

# 質問⑦

今後の配当金等、株主還元について変更はあるのか。

終了

ご清聴  
ありがとうございました。